

# 松下幸之助記念奨励賞



すえ つぐ けん じ  
末 次 健 司

神戸大学理学研究科准教授

1987年 生誕

2012年 4月 日本学術振興会 特別研究員 (DC1)  
2014年 9月 京都大学大学院人間環境学研究科  
相関環境学専攻博士後期課程修了  
2014年 10月 日本学術振興会 特別研究員 (PD)  
2015年 4月 京都大学白眉センター 特定助教  
2015年 12月 神戸大学理学研究科 特命講師  
2018年 10月 神戸大学理学研究科 講師  
2019年 8月 神戸大学理学研究科 准教授

末次健司氏は、「共生」をキーワードとして、植物とそれらをとりまく生物の相互作用の生態、進化、系統に関する研究を精力的に展開している気鋭の若手研究者である。

氏は日本各地でフィールドワークを展開し、植物、菌類、昆虫などを広く研究対象として新発見を続けている。とりわけラン科植物や菌根菌から養分を奪う菌従属栄養植物などを対象とした研究では、それらの菌根共生系、送粉共生系、種子散布共生系について画期的成果をあげた。

ツチアケビなど多数の菌従属栄養植物が自動自家受粉を進化させていること、キノコに寄生するクロヤツシロランがキノコ臭に擬態してショウジョウバエに花粉を運ばせること、ツチアケビの鳥による種子散布、ギンリョウソウなどの菌従属栄養植物のカマドウマ類による種子散布などの新発見を、フィールドでの地道な観察と実験により成し遂げ、多数の学術論文として報告している。

さらに、アマミヤツシロランをはじめとする新種植物を発見し、希少植物研究を通じて絶滅危惧植物の保全にも寄与している。ツイッターや広範な共同研究を通じて自然と人間の共生の必要性を発信しており、社会への貢献も大きい。今後の一層の活躍が期待される。



▲木登りする *Nepenthes veitchii* とともに (ボルネオ島)



▲タカツルランを見上げる (沖縄本島)



▲オモトの送粉者調査 (滋賀)



▲ツチトリモチの生態調査 (屋久島)